

## 韓国社会福祉共同学会大会での自由研究発表報告 II

金 大賢

大阪府立大学大学院

2020年10月23日～24日に、韓国社会福祉学会主催の社会福祉共同学会大会が「社会福祉公論の場を開き、社会福祉、その`社会性`を問い直す」というテーマで、オンライン開催された。今回の学会は、まるで「社会福祉学会祭り」のように、11の社会福祉学の専門領域学会と共催され、サムスンをはじめ8つの産学協力団体が参加した。その他、自由発表セッション、若手研究者セッション、大学院生セッション、韓・中・日セッションなど、9セッションがリアルタイムで行われた。

韓・中・日セッションでは、日本から2名、中国から2名が発表し、韓国の教授からコメントをいただいた。私は「地域共生社会における特定非営利活動法人の役割と課題—特定非営利活動法人フェリスモンテの実践事例を通して—」というテーマで発表した。

母国語で発表するので自信があったが、日本の制度や社会福祉サービス等を韓国語に訳すときに、その概念をより丁寧に説明する必要があるとコメントをいただいた。日本の社会福祉システムについて、ある程度理解していた参加者からも、日韓の相異点について質問があり、日本の非営利組織に関心が高いと改めて感じた。

また、韓国の先生から韓国の社会福祉に関する近況も聞くことができた。特に「多機関・多職種連携」、「包括的支援システム」、「非営利組織の運営」は今までも課題になっており、より多くの日本の政策や実践事例が発表され、韓国において参考にてきればと、比較研究の重要性について言及し、励ましをいただいた。

さらに、日本からもう一名の先生が発表され、国際的な感覚を持ち、研究を進めていくことの大切さについて感じた。大学院生のみならず、より多くの日本の先生が韓国の学会でも発表され、日本の先駆的な取り組みや日韓における共通課題など紹介ができれば、学問を通じて、より交流を深めることができるのではないだろうか。